

総合評価方式の運用に係る問題認識の例

区分	問題認識	発注者	受注者	国民等	
技術評価	定 プ タ 選 イ	① タイプ選定が適切になされているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 工事規模等により機械的にタイプを選定していないか ● 工事特性を踏まえて適切にタイプを選定しているか 		
	評 価 項 目 の 設 定	② 技術提案（施工計画）の課題設定が適切か	<ul style="list-style-type: none"> ● 工事特性を踏まえて本質的な課題を設定しているか ● 簡易型における施工上の課題と標準型における技術提案の課題との境界が曖昧になっていないか ● どの現場にも適用できる課題（同じ技術提案を使い回しできる）を設定していないか ● 技術力に差が出る課題を設定しているか ● 発注者の意図を明確にするために施工条件や要求要件を明示しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題が抽象的なため、提案を絞り込めず網羅的な提案とならざるを得ない ● その結果として技術提案に対する評価点に差がつかないのではないか ● 提案を求める範囲を明示してほしい（どの程度の提案まで許容されるのかがわからない） ● 条件明示徹底のためのマニュアルを作成してほしい 	
		③ 評価項目・配点が適切に設定されているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 地整間、事務所間での極端なバラツキはないか ● 簡易型では下請の施工体制を評価すべきではないか ● 価格と技術のバランスはどの程度が適切か 		<ul style="list-style-type: none"> ● 施工体制確認型により簡易な工事まで低入札を排除するのはおかしいのではないか
	評 価 方 法	④ 評価基準が明確になっているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 地整間、事務所間での評価基準・評価方法に極端なバラツキはないか ● 工事内容に特殊性がない小規模で難易度の低い工事等では示方書程度の提案しか出てこない。これらの工事における評価方法について検討が必要 ● 技術提案内容の重みに応じた評価となっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法が統一化されているか ● 発注者の標準案、評価基準が明確に示され、誰もが共通の解釈となっているか ● 人によって評価結果が異なるのではないか ● 効果的な技術提案の基準を明示していないため、技術提案項目を増やす等の対応をする企業が多いのではないか 	
		⑤ 技術提案（施工計画）の評価が適切か	<p>〔安い技術を高く買っているケースはないか〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 提案内容に過大な評価点を与えていないか ● 一位満点方式の採用により、技術力の高い者を過大に評価し、技術力の中位以下の者が過小評価されていないか ● 簡易な施工計画に対する評価は絶対評価が望ましいが、差別化を図るため、提案された内容により相対的に評価する傾向にあるのではないか <p>〔技術ダンピングとなっているケースはないか〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 必要以上の提案に過大な評価点を与えていないか ● 要求レベル（上限、下限）を競争参加者に的確に伝えているか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 優良可の3段階評価では技術評価結果の差が過大ではないか（特に標準型・高度技術提案型の場合） ● 一位満点方式は、全者の技術提案レベルが低い場合でも技術評価満点の者がでるので、評価方法として不適切でないか。また、固定値である標準点と加算点のバランスがとれないのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● オーバースペックのものを高い価格で調達していないか
	評 価 結 果 の 公 表	⑥ 技術評価の内容をどこまで公開すべきか	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術提案の評価結果について説明責任を果たしているか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術提案の評価の透明性が確保されているか ● 入札説明書の大まかな記述に対し、実際に評価する基準が不透明でないか ● 各社の技術が流出するので提案の内訳は公表しないでほしい ● 自社の分については技術提案の各項目の評価結果まで開示してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 恣意的に評価を行っていないか
	効 果 の 検 証	⑦ 総合評価方式の適用により品質向上の効果が現れているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術提案の履行を適切に確認し、結果を工事成績に反映しているか（工事成績に適切に反映できるか） ● 工事成績は工事完了直後までの評価であり、数年後に評価する仕組みとなっていないのではないか ● 提案内容の事後評価を行い、以後の評価にフィードバックされているか ● 総合評価方式の導入効果を工事成績評点等により対外的に説明できるか ● 技術提案による効果が総合評価の加算点相当の価値となっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術に優れたものが優位との認識はあるが、価格競争から抜け出すことができない ● 安全、品質、環境を考慮し、良い仕事をした企業が評価され、次の仕事に繋がる循環を構築してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合評価方式が品質の向上に寄与しているのか見えにくい ● 総合評価方式により品質向上を理由に工事価格を増加させているのではないか
手 続	① 手続に要する時間や負担を軽減できないか	<ul style="list-style-type: none"> ● 入札公告等資料作成、技術提案の審査資料作成、総合評価委員会等の開催事務により負担が増大 ● 技術検討に係る時間的余裕の減少 ● 施工体制確認型の拡大により積算ミスが生じない慎重な対応等から業務量が増大 ● 評価項目数の増加に伴い、審査・評価の長時間化、さらに現場での履行確認が増大 ● 手続の長期化により実工期が短くなる傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術資料の作成期間を確保してほしい ● 技術提案書には枚数制限が必要ではないか。（特に高度技術提案型の場合） ● 配置予定技術者の拘束期間が長期化している ● その結果として競争参加者による工事の選別化（競争性の二極化）が進んでいる 		
	② 技術提案に係る費用の負担を軽減できないか		<ul style="list-style-type: none"> ● 技術提案の作成に要する費用が負担となっている（特に高度技術提案型） 		
	③ 高度技術提案型が適切に運用されているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 手続に時間を要するため、高度技術提案型の活用が進んでいない ● 予定価格を適切に算定しているか ● 技術対話において発注者がどの程度まで改善を求めるのが適切か 			